

多彩な個性があふれるキャンパスで 切磋琢磨しながら身に付ける “社会で活躍できる力”

課題を自ら発見し
解決に導く
社会が求める力を
1年次より養う

「そのアイデア、もう少し相手の立場に立って見直した方がいいよ」「そんな方法があったのか!」「なるほど、自分では思いもつかなかった」。

このような声が聞こえてきたのは、6月中旬の水曜日1限目の協働学習教室にて開講されている共通教育科目「現代を生きる」の授業での一コマ。1人用のテーブル付きの椅子を寄せ合せて学生たちが5~6人のグループに分かれ、意見交換を繰り返している。現在、人文学部、経済学部、商学部や工学部の他、留学生も含め44人が履修している。

この授業は、現在、社会で求められている「自ら課題を見つける力」「チームで課題に取り組む力」「課題解決に向けて自発的・積極的に動く行動力」を培うことを目的とした内容となっている。

学生たちは、実際に企業が抱える課題を解決するために、ディスカッションを重ね個々が持つアイデアを練り上げてグループごとにまとめた提案を企業幹部にプレゼンテーションする。そして、その内容を企業側に評価してもらうのだ。

課題の根本を見つけ自分たちでその解決方法を探り当てる。そしてそれを実務的なカタチにしていくためには、周囲とのコミュニケーションが不可欠となる。グループの中での自分の役割と責任は何かを体験していくことで、社会からいや応なく必要とされる力を身に付けることができる。

83年の歴史を持ち、9学部で約2万人の学生が学ぶ西日本屈指の私立総合大学。この規模を擁しながらも全学生が一つのキャンパスに集う大学は全国でも珍しい。その広さは福岡 ヤフオク!ドーム約45個分。学部学科、学年、出身地等を超えた数多くの出会いが“ひとびと”への関心を高め、そこでの交流が、社会で活躍できる力を育てている。



UR都市機構や
印刷会社からの課題に
取り組む実践的な授業

5月にはUR都市機構から提示された「団地でのコミュニティ活性化の方策」という課題に取り組んだ。教室の中だけでは課題解決には至らないと考え、自主

的に団地へ足を運んで実地調査を行ったグループもあり、実際に現場に行き目で見ること、生の声を聞くことが重要であるという“気づき”があったようだ。

指導する廣嶋道子助教は「この授業では、教えるというよりは課題のポイントや解決方法に自ら気付いてもらうことが大切。その経験こそが、社会が求める人

材に育っていく過程だと考えています」と話す。

また、須長一幸准教授は「授業を通して、社会で必要となる“自分の意思を自分の言葉で伝える力”や、様々な相手に理解してもらうためのタフネスなどを身に付けることが狙いです」と説明する。

6月には、福岡市にある印刷会社、ミドリ印刷から提示された「AR(拡張現実)と印刷紙とのクロスメディアが行える新たな企画・立案」という課題にも取り組んだ。同社は印刷物にスマートフォンをかざすと、動画や3Dコンテンツなどが表示される次世代広告モデルを提供している。スマートフォンを頻繁に利用する学生でも、スマートフォンを用いた広告・販売促進などの企画・立案は初めて。自分のアイデア次第で、身近な情報ツールが実際のビジネス展開に役立つからだろうか、学生たちの活動も自然とイキイキしてくるようだ。

授業の責任者である寺田貢教授は「福

岡大学という多様な価値観を持つ学生がいる環境の中で、学部の枠を超えたグループとして課題に取り組む実践的な授業は、必ず社会で役立つ経験となるでしょう。社会で課題に取り組むには、リーダーシップが大切ですし、フォロワーシップも大切。集団の中での自分のあるべき立ち位置や適性に気付くこと、さらには学生のうちに多くの失敗を体験することが必要です。その体験が、何事にも恐れずに立ち向かえる精神力を培っていきます」と学生に期待を寄せている。

学部・大学院情報

- 学部
人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部、スポーツ科学部
- 大学院
人文科学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、理学研究科、工学研究科、医学研究科、薬学研究科、スポーツ健康科学研究科、法曹実務研究科(法科大学院)

column

大学・大学院で培った
周囲を巻き込む
「コミュニケーション力」

「福大で得た専門的知識で地元福岡に貢献したい」という思いがあって西部ガスへ入社。現在はLNG(液化天然ガス)を都市ガスに加工し社会に供給する関連会社へ出向中。LNGを利用した新規事業の検討や事業計画の策定、法改正への対応などに従事している。

大学では「水の物性」について興味を持ち、研究室では凍らない水「不凍水」について研究。そしてさらに研究を深めるために大学院へと進学する。「研究は基本的に個人作業が中心。試行錯誤の繰り返しで失敗の連続でしたが、研究室の恩師や仲間のフォローに幾度となく助けられました」。

研究を通じて藤松さんは「自分の意思を明確に伝え、そして周囲に共感・協力してもらうことが真のコミュニケーション。物事を進める際のポイントを学んだ」という。

学生が多く豊かな個性にあふれる福岡大学の中で、自分の“やりたい”ことを伝え、協調性を保ちながら周囲を巻き込んでいくことを身に付けたようだ。

「社会に出た今、様々な価値観や立場の違う方と仕事をするのが少なくありません。そのようなときに、福岡大学で培った『協同して物事をやり遂げる力』そして『周囲から共感を得られるようなコミュニケーション力』が様々な場面で生かされています」と語る。



卒業生
藤松 孝義さん
西部ガス株式会社
(現:ひびき エル・エヌ・ジー株式会社 出向)
理学部 化学科 2006年卒業
理学研究科 化学専攻 博士課程前期 2008年修了

column

交流と創造の新拠点完成へ
新しく工学部棟建設中



新しい工学部棟が2018年2月に完成予定。6階建ての開放的なデザインで設計され、「ものづくり工房」等が入る予定。

入学後の奨学金給付を確約する奨学制度「七限の杜」

一般入試出願予定者を対象(家計基準あり)に、入学後(1年間)の奨学金給付を確約する奨学制度「七限の杜 給付奨学金」は、返済不要で約2,000人が対象。支給額は文系学部30万円、理系学部50万円など。成績優秀者は特別増額もある。「七限の杜 第3子以降特別給付奨学金」(30万円、候補者数約1,000人)との同時給付も可能。

七限の杜 給付奨学金 (採用候補者数:約2,000人)		併給可	七限の杜 第3子以降特別給付奨学金 (採用候補者数:約1,000人)	
文系学部	理系学部		さらに第3子以降の学生には、 プラス30万円。	全学部
30万円 (※一部15万円) ●1年次生にのみ支給	50万円 ●1年次生にのみ支給		+30万円 ●1年次生にのみ支給	

●申請期間:平成29年11月1日(水)~12月8日(金)
●詳細はウェブサイトでご確認ください ▶ <http://nyushi.fukuoka-u.ac.jp/p/nanakuma/>

オープン
キャンパス
8/5(土)
10:00~16:00
(事前申込不要)

無限大
込めた思いは
五・七・五

第13回
全国高校生
川柳
コンクール



- 募集締切 平成29年9月5日(火) 当日消印有効
- 入選発表 平成29年12月中旬までに発表(予定)
- 表彰
 - 金賞(福岡大学賞) 賞状、図書カード 5万円分(1作品)
 - 銀賞(全日本川柳協会賞) 賞状、図書カード3万円分(1作品)
 - 銅賞(西日本新聞社賞) 賞状、図書カード1万円分(1作品)
 - 銅賞(NHK福岡放送局長賞) 賞状、図書カード1万円分(1作品)
 - 福大生が選ぶ賞(特別賞) 賞状、図書カード5千円分(5作品)
 - 入賞 賞状、図書カード3千円分(45作品) 学校賞 賞状(2校程度)

■応募方法
応募要項・方法の詳細、応募用紙のダウンロードについては、本学公式ウェブサイト「全国高校生川柳コンクール」をご覧ください。
※応募者の個人情報は、本学の個人情報保護規程に基づき適切に管理し、本コンクールの目的以外には使用しません。

■応募・お問い合わせ先
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1
福岡大学 広報課「全国高校生川柳コンクール」(係)
TEL 092-871-6631(代)
http://www.fukuoka-u.ac.jp/univ_gide/fkus/senryu2017/

Active
福岡大学